

授業科目(ナンバリング)	障害の理解 I (DA314) (実践的教育科目)			担当教員	中村 龍文・柳 智盛 (実務経験のある教員)		
展開方法	講義(遠隔)	単位数	2 単位	開講年次・時期	3 年・前期	必修・選択	選択 (介護必修)
授業のねらい							アクティブ・ ラーニング の類型
障害の概念や障害者福祉の基本理念を理解し、障害のある人を理解するため、障害のある人の身体機能や心理・社会的側面に関する基礎的知識を習得する。その基礎的知識から、障害のある人の地域での生活を目指すため日常生活に及ぼす影響を理解し、障害のある人の日常生活における体験を理解する。同時に、障害のある本人のみならず家族や地域を含めた周囲の環境への支援を理解するための基礎的な知識を習得する学習とする。以上を通して福祉・介護の専門的な知識と技術を理解できるようになることを目標とする。							③⑤⑩
ホスピタリティ を構成する能力	学生の授業における到達目標					評価手段・方法	評価比率
専門力	障害のある人の身体機能や心理の基礎を理解し、それを用いて説明ができる。					・最終回テスト	50%
情報収集、 分析力	障害者の生活や心理的特性についての諸問題及び取り組み方について調べ、それに対し指摘できる。					・最終回テスト ・課題レポート	10% 15%
コミュニケーション力	障害のある人とのかかわり方や諸問題に対する支援について、ディスカッションを通して自分の考えを表現することができる。					・受講者の発表 ・課題レポート	10% 15%
協働・課題解決力							
多様性理解力	障害のある人の多様性を理解し、専門家として具体的にどのように接していくのかなどの支援を考えられる力を培うことができる。					・最終回テスト	10%
出席						受験要件	
合計						100%	
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・最終回テストの評価は 70%とし、2 人の担当者ごとの授業内容について最終回テストを行い、評価の配分に示した通りに評価を行う。課題レポートは、授業で提示される課題及び感想の内容を 30%、最終回テストと総合評価を行う。なお、発表・課題レポートについては、次回の授業でフィードバックする。</li> <li>・担当者ごとの最終回テストは担当者によるが、基本的に選択式及び記述形式で問う。設問に対してどの程度主体的かつ丁寧に自分の意見を述べるかを評価する。最終回テスト後の授業及びポートフォリオを通してテストのフィードバックを行う。</li> <li>・評価の配分は、中村担当：柳担当=2：1 とする。</li> </ul>							
授業の概要							
<p>障害の基本的考え方の上に、障害のある人を理解するため、障害者の心理や身体機能に関する様々な障害（身体障害、精神障害、知的・発達障害、難病など）の種類や原因、特性を学んでいく。また、障害が及ぼす心理的影響やその支援について学んでいく。障害が日常生活に及ぼす影響を学び、その生活を考え、障害のある人、その家族への支援や、そこに携わる保健医療福祉職の連携と協働について、医療現場で医師の経験を持つ教員と心理臨床の現場での経験を持つ教員が担当し、現場実践を活かした学修を行う。</p> <p>授業は基本的に講義形式で行い、1～10 回の中村、11～15 回の柳による担当分野を学ぶ。 この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、180 分です。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：最新介護福祉士養成講座 14 (2019)『障害の理解』中央法規 参考書：授業の中で適宜紹介していくため準備は必要ない。 指定図書：最新介護福祉士養成講座 14 (2019)『障害の理解』中央法規</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>介護を学ぶ者として、障害のある人々の気持ちを理解することは重要なことである。障害者やその介護者を含めた生活支援を行うための根拠となる知識の修得だけでなく、障害のある人のことを具体的に考えて取り組むこと。遅刻・授業中の私語等学習態度が悪い者には厳しく対処する。</p>							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	障害の基礎的理解	障害の捉え方について学ぶとともに、障害の理解がなぜ必要かを考える。(中村)	障害の基礎について復習し、障害者福祉について予習する。
2	障害者福祉の基本理念 I	ノーマライゼーションやリハビリテーション、国際障害者年の理念について考える。(中村)	障害者福祉について復習し、視覚障害を予習する。
3	障害の医学的側面の基礎的理解①	視覚障害の種類と原因、特性について学ぶ。また、先天性と後天性の視覚障害の違いについて考える。(中村)	視覚障害を復習し、聴覚、言語機能障害を予習する。
4	障害の医学的側面の基礎的理解②	聴覚障害、言語機能障害の種類と原因、特性について学ぶ。(中村)	聴覚、言語機能障害を復習し、肢体不自由を予習する。
5	障害の医学的側面の基礎的理解③	肢体不自由の種類と原因、特性について学ぶ。(中村)	肢体不自由を復習し、内部障害について予習する。
6	障害の医学的側面の基礎的理解④	内部障害(心臓機能障害、じん臓機能障害、呼吸機能障害)の原因、特性について学ぶ。(中村)	心臓、じん臓、呼吸機能障害の復習と他の内部障害を予習する。
7	障害の医学的側面の基礎的理解⑤	内部障害(ぼうこう直腸機能障害、小腸機能障害、免疫機能障害)の原因、特性について学ぶ。(中村)	ぼうこう直腸、小腸、免疫機能障害を復習し、精神障害を予習する。
8	障害の医学的側面の基礎的理解⑥	精神障害の種類と原因と特性について学ぶ。(中村)	精神障害を復習し、知的障害・発達障害を予習する。
9	障害の医学的側面の基礎的理解⑦	知的障害・発達障害の種類と原因、特性について学び、両者の違いについて考える。(中村)	知的障害・発達障害を復習し、難病の予習をする。
10	・障害の医学的側面の基礎的理解⑧ ・最終回テスト	・難病の種類と原因と特性について学ぶ。また、重複障害について学ぶ。 ・1回～10回の内容に関するテストを行う。(中村)	難病の復習をし、障害と心理的影響を予習する。
11	障害のある人の心理的側面の理解①	障害が及ぼす心理的影響について学ぶ。(柳)	障害の影響を復習し、障害の種類と心理的特性・問題について予習する。
12	障害のある人の心理的側面の理解②	障害の種類や程度は多様であるが、ここでは障害の種類と心理的特性、心理的問題について学ぶ。(柳)	障害の種類と心理的特性・問題を復習し、障害の受容について予習する。
13	障害のある人の心理的側面の理解③	障害の受容について、家族にとっての受容も含めて学び、受容へ向けての支援を考える。(柳)	障害の受容を復習し、人が環境に適応することと障害者の社会参加について予習する。
14	障害のある人の心理的側面の理解④	適応と適応機制について学ぶ。障害のある人の社会参加を阻むバリアについても考えていく。(柳)	人が環境に適応することの諸問題について復習し、障害が発達と日常生活へ及ぼす影響について予習する。
15	・障害のある人の心理的側面の理解⑤ ・最終回テスト	・先天性の身体障害や知的・発達障害児・者において障害が及ぼす発達や日常生活への影響を考える。 ・11回～15回の内容に関するテストを行う。(柳)	本授業の前期全体を振り返り、障害の理解について考える。